

日吉台地下壕保存の会

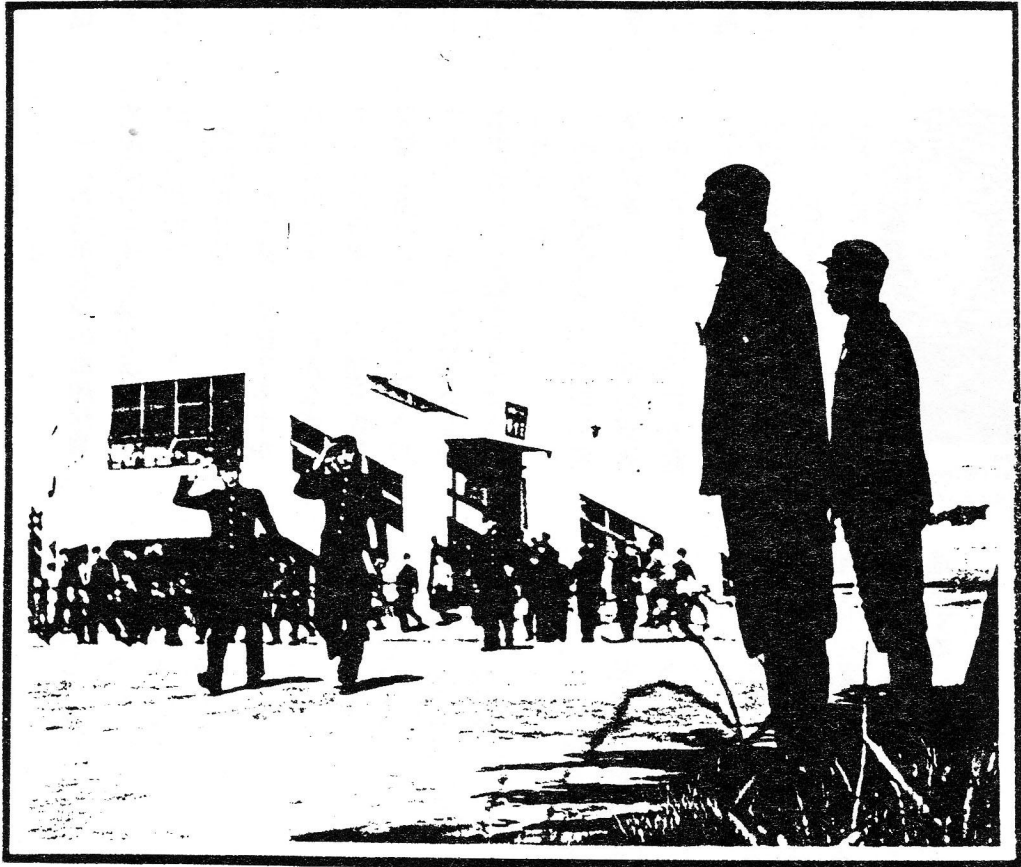
会報

第30号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27
寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上
郵便振込(口座番号)横浜 5-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会



戦時中の日吉駅附近 慶大塾史資料室資料の複製

目次	ページ	キャンパス地下に海軍司令部	5
私にとっての戦争	2~3	連載日吉台地下壕	
三浦半島地区の		当時の関係者の	
地下壕見学会に参加して	3	思い出話	7
日吉台地下壕見学会感想文	4	幹事会報告	7~8

私にとつての戦争

会 員 藤 田 新

1 1992年念願の風船爆弾

私が応召で陸軍第四飛行場大隊(下関市小月)に入った一九四四年、中国の成都を前進したB29の編隊が、本土(八幡)を初空襲した。これを迎撃したのが、飛行第四戦隊の「屠龍」である。

初年兵で入隊すると、B29の前身で一まわり小さいB17(日本軍が南方で入手したものの)一機が、機体に日の丸の標識をつけて着陸していた。

仮想敵として「屠龍」が攻撃訓練に使用していたが、そばにならんでいる日本の戦闘機・偵察機・爆撃機にくらべて、びっくりするその巨大さに、日本の運命を予感し、足もすくむほどであったことを思いだす。

2

一九九二年念願の風船爆弾放流地跡(茨城県北茨城市平潟)を訪ねた。

説明板を読む。

第二次大戦中に日本本土から一万キロメートルかなたのアメリカ合衆国へ、超長距離爆撃を実行したのはこれだけであり、世界的にも珍しい事実として記録されるようになりました。

約九千個放流し、三百個前後が到達、アメリカ側の被害は僅少でしたが、山火事を起こしたほか、送電線を故障させ原子爆弾製造を三日間遅らせた、という出来事もあとでわかりました。



風船爆弾 太平洋上を飛行中の風船爆弾 (1945年)

日本大百科全書 20

風船爆弾放流地跡 忘れじ平和の碑

新しい誓い

海のかなた 大空のかなたへ 消えて行った 青い気球よ 今は もう 呪いと殺意の 武器はいらない 青い地球よ さようなら さようなら戦争

現地に立ち、東の青空をながめて、私は深い感慨で座ることができなかつた。

3

一九九二年一月日吉台地下壕保存の会事務局長寺田貞治先生(慶応高校教諭)のご案内で、壕を有志の人びとと巡見することができた。日吉

に三〇年以上住みながら、はじめである。

慶応寄宿舎への道の左側に古墳跡があつて説明板がある。その奥にコンクリートの昇降口らしいものがある。地上に見える唯一の地下壕構造物であるから、ぜひ説明板をつけてもらいたい。日吉の古代と現代を結ぶ史料になろう。

4

本年八月一九日マリオン一階朝日新聞記念会館Bスクエアでの「特攻五〇周年戦時下の青春展」(慶大白井厚教授研究会)を見た。

『きけわだつみのこえ』

(日本戦没学生記念会編)の巻頭にある上原良司の遺書の原文があるではないか。それも活字になっていない長文が一気に読めるとは。 もう一つ。当時の慶大予科

経工組の級友が日吉の校庭でとったスナップが大きく引き伸ばされて、一枚あった。彼らの若い顔々。学徒出陣で戦

死した友もいる。上原良司の顔とダブって、涙がとまらなかつた。

二浦半島地区の地下壕
見学会に参加して

幹事 佐相康雄

一〇月九日薄曇りの中、元

横須賀海軍工廠地下工場跡の

戦時中は海に面していた。

見学会に参加した。京浜急行

「桜花」は自力で動けず戦

追浜駅から一行四〇名余り、

間機に吊り下げられて敵隊に

車に分乗して現地に向った。

接近したあと、ロケットをぶ

小高い丘の下で現在は汚水浄

つかるもので、一度発進すれ

化施設の一角に到着。パンフ

ばそれまでであった。実際沖

レットをいただき、神奈川県

縄戦で使用され、米軍はBA

朝鮮人強制連行真相調査団、

KA BOMBと名付けたと

三浦半島地区教職員組合の方

いう。又「秀水」はB29など

々の説明をきいた。

を迎撃するために造られた口

この地下壕は人間爆弾「桜花」や、ロケット「秀水」を

ケットで実戦には使用されな

組立、製造していた所で、今

かつたという。

は埋立地に隣接しているが、

地下壕へと入っていく。入

かがんでやっと入れる程度、中に入ると幅三・五m x 高さ三・五m位の広い壕が続いていた。表面は素掘りで砂を含んだ地質のため触れると崩れる程脆くなっている。少しひんやりとする。奥に進むと会議室の跡があり、入口の表札はくりぬいてあった。更に、トイレの跡、炊事場跡などがあり地下壕は延々と続いていた。途中五〇段程の階段があり、昇ると外にでられ、丘の頂上へと続いていた。当時は見晴しが良かったであろう。階段を戻り更に奥へ行くと、周囲がコンクリートで固められ、天井にフックがついている所があった。ここで「桜花」をつり上げたのだという。最初の入口へと戻り外へ出た。他に外側から電気室の入口跡等を見学した。

この地下壕でも多くの朝鮮人が掘削に従事していたと言われる。特に危険なハツパ(ダイナマイト)をかける場所で作業し、落盤で亡くなる方が多数いたという。地下壕で働いていた人が現在も近くに住んでいらつしやるそうだが、当時の事をあまり話したが、当時の事をあまり話したが、残されていないという。貴重な話。次に夏島にある当時の水上飛行機の格納庫を外側から見学した。その後懇親会が行なわれたが、父親が戦闘の訓練に参加されたという方がおり、貴重な話を聞くことができた。この地下壕見学会に参加し、戦争というものの愚かさ、無謀さを強く感じ、平和な社会の存在の為に当時の遺跡を保存し、語り継いでゆくべきだと思つた。

日土ロム口地下壕 見学予△△感心相心△△

一九九三年十一月二四日
のむぎオーブンスクール
(高校中退者、不登校生徒を集めて、私的に教育している学校)

★戦時中にあんなに立派な地下壕を造っていたとは知らなかった。今みたいに技術が発達していない時に、トロッコなどであんなに立派なのを造ったのはすごい事だと思う。戦争がこれからもおこらないように、ああいう物を保存しといた方が良いと思う。

★沖繩の壕にしても、どこにしても、いつも造る人は強制的にえらい人達の為に体をずたずたにしながら働かなければならない。これは昔話では終れない。現在の社会にもなにか同じようなものが見られ

ます。真の民主主義をつくるには国民それぞれが、確かな知識を持ち、歪んだ社会を見る力をつけることが第一だと考えます。その為には、いろいろな人達に話をし続けることが必要だ、学ぶべきだ、と思います。

説明の言葉がとても難しく、勉強の苦手な高校生には眼気を誘うものでした。聞く側はそれでも聞くべきですが、これからはそういう子達にも分りやすく平和学習、説明ができるように努力してみたいだけではないでしょうか。

保存については、協力できるかぎり、協力したい気持ち一杯です。

★沖繩の地下壕とか、見ているので、あまり実感がわかなかった。

保存することは、とつても良いことだと思うが、とてもむ

ずかしいことだと思えます。

★前に沖繩のチビチリガマという集団自決の起ったところへ行ったが、そこは違つてきちんと整備されていた。機械類は全てとられてなくなつたと聞いたが、もし機械があったらウルトラマンとかの基地のような感じかなと想像した。

壕の入口は、シンナーを吸つて遊ぶ奴がいるから、ふさがれてしまったと言っていたが、それは大人が戦争の事、戦争中に何が起つたかなどをきちんと語りついでいかなければ、何も考えない奴がそこでそんなことをしているんだと思う。きちんと語りつぐためには、こういうのは絶対必要だと思う。今の私達と同年代の人達は、そういうのを全く知らない人が増えているので、必ず残すべきだ。

★身近にこのような戦争のための司令部壕があったことに驚いています。松代大本営と違い、実際に戦争時に使われた壕であり生々しさが伝わってきます。内部はもう少し広い場所があるのかと想像していましたが、いわゆる地下道のような印象を受けました。しかし、身近に「戦争」をみるため、大切な戦跡だと思えます。慶応大学構内の建造物(であること)にも驚きました。

整備して見学可能にして保存するには、かなり大変だとの印象を受けました。ぜひ保存する価値のあるものだと思います。保存のための運動に協力いたします。

★ずいぶん大きな地下壕だなあとびっくりした。

絶対に保存すべきです。

普段立っている地面の下に一体何が眠っているのか、あなたは想像したことがあるだろうか。慶応大日吉キャンパス(横浜市港北区)には、海軍の地下壕があるという。海まで十キの場所に……? なんとも好奇心をそえられるよ。ここはたとえ火の中水の中、もちろん壕の中までも。文字通りの潜入りポートを試みた。

(早稲田大・入江 一也 写真も)

赤いトンネル?

東急東横線の電車が日吉駅に近づくと、高台に建つ校舎が見えてくる。「裏側は簡単だ。早速申し込んだ。のガケ下でも探せば、すぐに見えてくるな。」ところが、キャンパスは広く、全体が高台にある。やみくもに歩いて探すのはとてもムリだよ。だ。「お昼でも食べてから、だれかに聞いてみよ」とやって来た食堂の入り口で、偶然その看板に出

キャンパス地下に海軍司令部

日吉周辺の地下壕は五カ所、幅二〜四、高さ三のトンネル。途中十数カ所に分岐しており、作戦室、通信室、倉庫、水洗便所などが造られていたそうだ。倉庫にはワイスキーやワインまであったとか。さていよいよ地下壕へ。



地下壕の壁に開けられた穴。溶けて流れた石灰分が固まり、三二鍾乳洞のようだ

戦争の傷跡今も

寄宿舎のある丘のふもと、東海道新幹線の線路にほど近い民家の敷地内に、その入り口があった。入っている防空壕ではなく、海軍の重要な地下施設だったという。今入る地下壕は大部分がキャンパス内の長さ約一キ、幅二〜四、高さ三のトンネル。途中十数カ所に分岐しており、作戦室、通信室、倉庫、水洗便所などが造られていたそうだ。倉庫にはワイスキーやワインまであったとか。さていよいよ地下壕へ。

寄居舎のある丘のふもと、東海道新幹線の線路にほど近い民家の敷地内に、その入り口があった。入っている防空壕ではなく、海軍の重要な地下施設だったという。今入る地下壕は大部分がキャンパス内の長さ約一キ、幅二〜四、高さ三のトンネル。途中十数カ所に分岐しており、作戦室、通信室、倉庫、水洗便所などが造られていたそうだ。倉庫にはワイスキーやワインまであったとか。さていよいよ地下壕へ。

在はわずかにゲジゲジと菌類がすむばかり。床には土がたまり、最近の雨でぬかるんでいるところもあった。私は長靴を履いたが、サンダルの人足を取られて苦労していた。ところで、なぜ日吉に海軍が来たのか。この地下壕が掘られたのは、今からちょうど五十年前の一九四四年。主力を失った連合艦隊は陸から作戦を指揮することにした。一方、学生は前年の徴兵猶予停止により次々と戦場へ送られ、キャンパスにはほとんど残っていない。海軍は慶応大と賃貸借契約し、周辺農家の土地を強制的に買い上げ、機密のうちに突貫工事を強行したという。だが、米軍は知っていたのか、日吉付近は三度の空襲に見舞われた。民家は焼け、地下壕は残り、戦争は終わった。日吉キャンパスはその後四年間米軍に接収された。一時間ほどの探検の後、外の明るさを目にした私は、五十年前から戻ってきたような気分をおぼえた。参加者は足下の戦争遺跡の壮大さに驚きつつ「戦争についての事実は隠されるべきでない」「当時を再現して展示できるとよい」と感想を話していた。中でも一般参加の海軍OBという男性がした、戦時中是我々と同年代だったという話には考えさせられた。見学会の企画を担当した慶応生協学生委員会の浜中隆太君(経済学部一年)は「身近に残る戦争の傷跡を見て、平和への意識が高まれば幸いだ。看板で地下壕の存在を初めて知った人もいたのでPRをもっと工夫したい」と語る。百聞は一見にしかず。次の機会はあるのだろうか。

連載

日吉と地下壕
当時の関係者の
思いい山話 7

地下壕の築城 2

父が現場監督をされ、ご自分でも手伝っておられた石森氏に伺います。

石森 一成氏の話

(ききて・寺田 貞治)

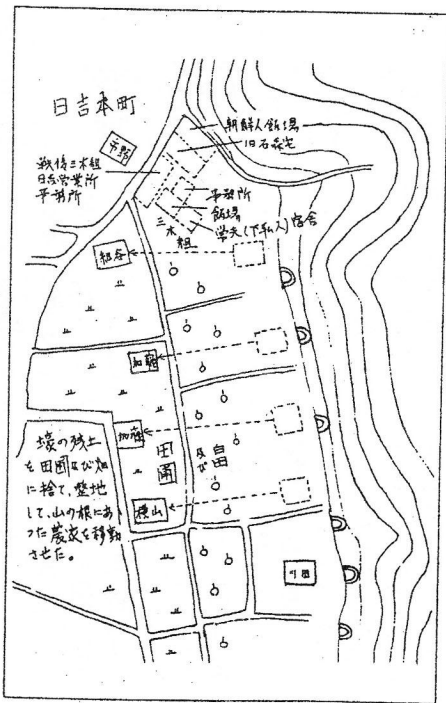
父は清水建設に勤務し、満州に出張中の昭和一三年頃、私は常盤松にあった慶応の普通部に入學し、渋谷から自転車で通うことになった。父は私を日大工学部に入學させたかったようだ。

父は帰ってくる三木組に現場監督として入った。厚木の航空隊の格納庫を作りに行ったり、清水の三保に予科練

の兵舎を作りに出かけたりしていた。昭和一九年頃横浜市の反町へ、浅野ドックの社員寮を作るために行ったが、空襲で焼けたので日吉に移った。

通部から下ってきた赤門坂下に三木組の事務所を設け、我が石森宅も近くに作られ、地下壕が掘り始められた。

で昼夜兼行で掘っていた。山根(山ぎわ)にある家は地下壕を掘るのに邪魔になるので、父は苦勞して曳き屋を集め、移動させた。家を持ち上げコロをかませ、線路を敷いてウインチで引張った。一軒曳くの何十人もの人手が必要だった。



州や小笠原に出張していた。満州に出張中の昭和一三年頃、私は常盤松に

で、私が案内したが、道も悪く足場も悪くうまくいかなかった。軍の命令で箕輪の方をやれというので、現慶応普

入口辺りはツルハシで掘り、奥の方ではハツパをかけ、掘った土砂はトロッコで運び出し、田や畑に捨てた。三交代

日本人の職人が五〇〜六〇人位通っていた。三木組の宿舎には一〇人位の常夫(下職人)がおり、事務所と宿舎の

父は清水建設に勤務し、満州に出張中の昭和一三年頃、私は常盤松に

で、私が案内したが、道も悪く足場も悪くうまくいかなかった。軍の命令で箕輪の方をやれというので、現慶応普

入口辺りはツルハシで掘り、奥の方ではハツパをかけ、掘った土砂はトロッコで運び出し、田や畑に捨てた。三交代

日本人の職人が五〇〜六〇人位通っていた。三木組の宿舎には一〇人位の常夫(下職人)がおり、事務所と宿舎の



①学徒勤労動員 1941(昭和16)年8月文部省に中央本部をおく学徒報国隊、12月に国民勤労報国協力令による国民勤労報国隊が結成され、勤労作業の組織的な強制労働化がすすんだ。一方で、「学徒出陣」とともに兵役に服さない学生・生徒への労働強化は、1944(昭和19)年3月ごろから学校を離れての通年動員へとすすみ、同年8月の学徒勤労令では身体虚弱者も就労させられた。写真は航空機工場で働く学徒勤労報国隊

日本の歴史7 ほるぷ出版

(生協ニュース教職員版
第50号より抜粋転載)

間の飯場で渡辺という人が炊事を担当していた。医学生が働きにきたので飯をよく食べさせた。軍の仕事なので食糧は十分にあり、日本人労働者の待遇はよかった。

我が家の隣りには韓国人の飯場があり、三木組が連れてきた一五〇人ほどの人がいた。(鉄道工業が連れてきた朝鮮人の一部ではないかと思う、寺田註)

安田春雄という韓国人の親方が、韓国人労働者の面倒を見ていた。韓国人の食事は、それほど悪くはなかった。よ

くどぶろくを作って飲んでた。雨が降って仕事がない時はバクチを打っていた。韓国人労働者の賃金その他の費用は、父が三木組に請求した。私は労働者の出勤簿をつけていたが、それは三木組本社に報告された。

昭和二〇年三月六月、私は川崎の北辰電気に学徒動員で通い、精密機械の部品を作っていたが、六月入隊し我孫子に配属され、そこで終戦を迎えた。

幹事争い△△却取生口第四回

九月六日午後六時半

日吉地区センター

報告

- 一、七月一〇日朝鮮人強制連行真相調査団による見学会・交流会二〇名参加
- 二、同一四日第三回平和のための戦争展打合せ
- 三、同一九日ピースサイクルによる見学会・交流会約三十五名参加
- 四、同一二日慶大常任理事小谷津氏に鮫島会長、寺田事務局長が面会。保存について話し合った
- 五、同一四日国立市公民館による見学会三五名参加
- 六、同一九日港北区民会議の分科会で九五年度予算要望書に地下壕の整備・保存の調査費を含めることが了承された
- 七、同一〇〇三一日朝鮮人・中国人強制連行強制労働を考える全国交流会に足立、岡上幹事が参加
- 八、八月九日NHKによる地下壕ビデオ撮り。元海軍人事務局の二味さんを中心に鮫島会長、茂呂幹事が案内、一六日一八時四五分頃放映
- 九、同一二日南風原文化センターによる見学会・交流会沖繩から一八名、その他八名参加
- 一〇、同一六日テレビ朝日ステーションEYEで一八時半から地下壕生中継
- 一一、同一二日川崎市幸区聴覚障害者協会による見学会約三〇名参加
- 一二、同一五日多摩高校「日朝の歴史を考える会」による見学会一〇名参加
- 一三、同一二日JR東日本労組品川支部と打合せ。一〇月一九日武蔵小杉の中小企

業会館で寺田事務局長が講演することが決定

一四、九月二日田無市の「特攻五〇年展」に写真ハネル貸出し

一五、一〇月九日横須賀市浦郷町「元横須賀海軍工廠地下工場跡」の見学会予定

一六、同一五日慶応生協学生委員会主催見学会予定

一七、同二九日「博物館問題を考える会」による見学会・交流会予定。学芸大教授君塚先生の話も予定

舩軒車手△△報出口第五回
一〇月四日午後六時半
日吉地区センター

報告
一、一〇月二三日平和のための戦争展実行委員会予定

二、同二二日慶大経済学部羽田先生と学生による地下壕のビデオ撮り予定

三、十一月一三日在日本朝鮮

留学生同盟による見学会予定

四、同一九日のむぎオープンスクールによる見学会予定

五、同二七日川崎市中原区反核区民の会による見学会予定

議事
会報三〇号について
*幹事が一筆ずつ書く

*足立、岡上幹事の長野市の全国交流会の報告を載せる
三浦半島地区見学会について
*ピラの送付

*谷、岡上、喜田、佐相、寺田幹事が参加予定
講演会について

*白井厚先生、永戸多喜雄先生に依頼しては？
平和のための戦争展について

*藤山記念館、中小企業会館などを当ってみる
舩軒車手△△報出口第六回

十一月一日午後六時半

報告
日吉地区センター
一、一〇月九日三浦半島地区見学会約四〇名参加

二、同一五日慶応生協学生委員会による見学会一四名参加

加
三、同一九日JR東日本労組講演会で「日吉台地下壕とカンボジアの現況」を寺田事務局長が講演約三〇〇名参加

四、同二二日羽田先生と学生六名によるビデオ撮影終了

五、同二九日「博物館問題を考える会」による見学会・交流会三七名参加

六、十一月三〇日矢上小による見学会予定

七、十二月八日戸塚の中小企業会館で「日吉台地下壕」について寺田事務局長の講演会予定

八、同一〇日午後二時〜慶大

日吉・藤山記念館にて講演会「太平洋戦争と慶応義塾」
真珠湾から日吉の丘へ
講師・白井厚先生予定

九、同一四日JR東日本労組大船電車区分会による見学会予定

議事
会報三〇号発行について
*十一月八日発送

*白井先生の講演会ピラを同封する

地下壕写真展開催について
*十一月五〜九日
午前九〜午後三時まで
横浜銀行日吉支店ロビーにて開催予定

~~~~~  
お願い  
~~~~~  
は 方 願
い の お 願
の を ま
納 を ま
未 金 し
費 送 た
ご い
~~~~~